

京田辺市議会

平成 26 年度

**建設経済常任委員会
管外視察研修報告書**

視察研修の趣旨

平成 25 年度に京田辺市が初めて取り組みを行った「京田辺市中小企業海外販路開拓支援事業」について、建設経済常任委員会として当該事業の成果や今後の取り組みの必要性を判断するため、平成 26 年度開催される「日中ものづくり商談会@上海 2014」について視察研修を行う必要があると判断した。

このことから、建設経済常任委員会として下記の 3 点を主な目的として、視察研修を実施した。

1. 日中ものづくり商談会@上海 2014 の現地視察を実施して、京田辺市内の中小企業の販路開拓の成果や課題を整理して、今後の京田辺市施策に活かすこと。
2. 発展著しい中国国内でも有数の発展を遂げている上海近郊都市長興県を訪れて、都市計画や企業誘致、また進出している企業等を見学するとともに、長興県関係者との懇談を行う。
3. 在上海日本国総領事館、日本貿易振興機構（JETRO）京都府上海サポートセンターを訪問し、販路開拓として中国を選定する意義及び今後の対中戦略の在り方について懇談を行う。

期間

平成 26 年 9 月 3 日（水）から 9 月 5 日 3 日間

参加者

京田辺市建設経済常任委員会	委員長	米澤 修司
京田辺市建設経済常任委員会	委員	岡本 茂樹
京田辺市建設経済常任委員会	委員	岡本 亮一
京田辺市建設経済常任委員会	委員	喜多 進
京田辺市建設経済常任委員会	委員	塩貝 建夫
京田辺市建設経済常任委員会	委員	松村 博司

(随員)

京田辺市経済環境部	部長	勝谷 秀夫
京田辺市議会事務局	局長	村上 陽一

スケジュール

月日	時 間	内 容	備 考
9月3日 (水)	6:30(日本時間)	市役所集合・出発	みどり号にて移動
	7:30	関西国際空港到着、搭乗手続	
	9:30	関西国際空港発	NH155 便
	11:15(中国時間)	上海浦東空港着	(以後中国時間)
	12:00	長興県へ移動	チャーターバス
	15:30	長興県政府庁舎等見学	
	16:00～17:15	大唐貢茶院	願渚山陵羽茶文化風景区内の施設視察及び長興県関係者との会談
	17:30～20:30	長興県の関係者と懇談会	
	21:00	ホテル到着	新柴金大酒店
9月4日 (木)	8:15	ホテル出発	チャーターバス
	11:45～15:15	上海世貿商城	昼食を挟み、日中ものづくり商談会視察
	16:00	ホテル到着後チェックイン	虹橋賓館
9月5日 (金)	8:30	ホテル出発	徒歩
	8:45～10:05	関係機関表敬訪問	京都府上海ビジネスサポートセンター
	10:10～11:00	関係機関表敬訪問	ジェトロ上海事務所
	11:15～12:00	関係機関表敬訪問	上海日本総領事館
	14:00	ホテル出発	チャーターバス
	16:00	上海浦東空港到着後搭乗手続	(空港トラブルにより機内待機)
	22:10	上海浦東空港発	NH154 便
	25:30(日本時間)	関西国際空港着	(以後日本時間) みどり号にて移動
	26:30	市役所到着・解散	

長興県

長興県での研修テーマは「中国の地方都市における発展の現状について」です。訪問した長興県は揚子江デルタの中心に位置し、浙江省、江蘇省、安徽省3つの省が接するところにあり、周辺200km圏内には上海、杭州、南京、蘇州など52の都市があります。人口約64万人、面積1,420km²で、交通網として高速道路、新幹線が整備されています。



長興県は、晋の武帝の時代に県制が始まり、1700年あまりの歴史を持つとともに、自然資源が豊かで、大湖からはシラス、レンギョなどの魚類が、農作物では銀杏が特産となっています。また、茶の栽培も盛んで、唐代には献上茶とされていた紫笋茶（しじゅんちゃ）が生産されるなど、特色のある茶文化が形成されています。



約5年前から、開発新区の事業が進められ、新産業では自動車製造業を中心に多くの企業が進出しており、売上高は1兆7千億円になるとのことでした。また、病院や図書館、大学が先行的に整備されており、生活基盤が充実しているため、市民の満足度は高くなっているとのことでした。

訪問した施設は、願渚山陵羽茶文化風景区という開発区域に整備された「大唐貢茶院」という施設で、西暦770には「貢茶院」と呼ばれる国営の製茶工場があったことにちなみ整備されたもので、有名な陸羽の「茶経」をはじめとする茶文化の歴史などが学べる施設となっています。



立地環境や歴史、文化の様々な面で、長興県は京田辺市と類似している点が多く、長興県の関係者との懇談は、マスコミからは伝わらない地方都市の発展状況を肌で感じることができ、今後の京田辺市のまちづくりの在り方や施策を検討する上で、参考となるものでした。



日中ものづくり商談会@上海2014

上海で行われた「日中ものづくり商談会@上海2014」での研修テーマは、「海外販路開拓の効果や課題を整理し今後の施策に活かすこと」です。

「日中ものづくり商談会@上海2014」は、平成26年9月3日（水）から4日（木）の2日間、上海世貿商城（Shanghai Mart）において開催されました。このイベントは、中国でビジネス展開を図りたい日本企業と日本企業と協業したい中国の企業が集まり、材料や部品の現地調達、自社製品の販路拡大のため、調達・販売品を展示し、中国企業や、現地日系企業と具体的な商談を行う商談会です。今回の商談会では550社の企業が出展しましたが、そのうち、京田辺市からは7社が参加となり、昨年より1社増えています。



京田辺市では、市内企業の販路開拓の支援として平成25年度に初めて海外販路開拓事業として「日中ものづくり商談会@2013」への出展料の補助や通訳の派遣、渡航支援などが行われ、大きな成果と企業満足度の高い事業であったと評価されました。そこで、今年度からは市内企業の販路開拓支援について「京田辺中小企業売り込み隊プロジェクト」として「日中ものづくり商談会@上海2014」「メッセナゴヤ2014」「スーパーマーケット・トレードショー」の3つの国内・海外のビジネス商談会・展示会に合同出展することを支援する事業となっています。



研修参加者全員で、市内企業が合同出展している展示ブースを訪問し、直接出展者や来展者から意見を聞いた後、分散して情報収集、意見聴取等を行いました。



商談状況や参加しての感想を尋ねたところ、2回目の出展企業からは、昨年は初めてでありいろいろ不安もあったが、今年はJETROの協力もあり、安心して商談ができた。初参加の企業からは、会社・商社関係、ホテルなどからも商談があり、今後は中国も含めて、他の国の反応も見てみたいなど、多くの意見を聞くことができました。また、参加企業から、出展について、京田辺市の支援が大きな後押しになっている。来年も参加したいなど事業効果についても意見を聞くことができ、今後、建設経済常任委員会として政策提言に活かす参考となりました。

京都府上海サポートセンター・JETRO 上海事務所・在上海日本総領事館

京都府上海サポートセンター・JETRO 上海事務所・在上海日本総領事館での研修テーマは、「海外販路開拓とし中国を選択する意義などについて」です。



京都府上海サポートセンターでは、現在、中国の人口は約 15 億人で、上海の人口は約 2,400 万人となっていること。中国を中国という一つのくくりでとらえるのではなく、22 の省、5 つの自治区、4 つの直轄都市、それぞれを一つの国として見るべきと説明がありました。これまでの中国は安い労働力という見方がされ製造業を中心に外需依存の経済であったが、リーマンショック以降は、内需中心に方向転換されている。一人あたりの GDP も 6,747 ドルと 5 千ドルを超え、自動車などの購入が進むラインを突破しており、「生活することから」「質」を求める時代になっている。販路拡大にあたっては、中国にない高い技術力、経験を売るべき、その資金によってさらに高度な技術、ノウハウを高める必要があるとの説明がありました。

JETRO 上海事務所では、上海には資産 1 億 7 千万円以上の富裕層が 14 万 7 千人おり、市民の大半は自動車やスマートフォンを所有している。人件費もここ 5 年間で倍増している。日本企業がどうやって市場に食い込むかが今後の課題であるが、上海市民が生涯のどこでお金を使うかで、ヒントを説明されました。まず、出産での産後ケア、次に修学時の費用、3 つめが結婚式であり、その部分での日本企業の進出が増加しているとのことでした。また、企業進出の注意点として、最低 5 年間は腰を据えてやらなくてはならないこと、中国向けにカスタマイズが必要なこと、契約社会であり、専門家に相談し、契約内容をきちんと確認することが必要との説明がありました。



上海総領事館では、中国人を対象にしたマーケティングについて、最近では PM2.5 の影響もあり、呼吸器系の製品が広がっていること、今後水や土壌を対象とした環境分野が有望視されるとの説明がありました。また、京田辺市特産の玉露の販路拡大については、日本、京都、お茶、玉露という連想を生む取り組みで、玉露を覚えてもらう必要がある。京都市内にいろいろなお茶を試飲できる場を考えてはどうか。お茶については、産地が多く一自治体の情報発信には限界があり、面的な取り組みを行い観光の幅を持たせることも必要ではないか。インターネットを活用し、地図の電子化や翻訳なども行ってはどうかという、説明がありました。

参加委員のレポート

米澤修司 委員長

生産から消費に、大きく変わりつつある上海とその周辺

9月3日早朝に京田辺を出発、関西空港から離陸、上海浦東国際空港には昼に到着。食事は機内食で済ませて、マイクロバスにて高速道路を湖州市長興県に向かった。

混雑する市内を外れて上海ディズニーランドが作られている付近から、空港上海市の南側を通り杭州に向かう高速道路をひた走った。道路の周囲は農村地帯であったが、水路や運河が縦横に走り、至る所に養魚場があり、水路と陸地の高低差はほとんどないように感じた。農家の多くは3階建の一戸建てが多く裕福な農村に感じられた。途中、トイレ休憩をしたパーキングは改修工事中であったが、駐車場には切り倒された木が散乱し、トイレに行く通路にがれきが転がっているなど、中国らしさがうかがえた。道路は広いものの路面は悪く時々、バスの後部座席は大きくバウンドした。3時間ほど走ると長興県に入った。少し景観が変わり小高い山や、竹藪が目に入ってきた。

市内に入り、役所前に到着したが、役所の庁舎と党委員会の高層ビルが建ち、広場、公園が整備され、市内の道路も幅広く整備されていた。開発区域に入ると、電柱は地中化され、ゆったりとした環境に近代的な工場が立地していた。

市の共産党書記の案内で、茶聖「陸羽」を祭った施設で「お茶を飲みながら市の概要」のレクチャーを受けた。長興県は、お茶と筍と銀杏が特産であるとのことであった。

夕食は、農家レストランであったが、庭には銀杏の木があり、もう少しすると銀杏が取れるとのことであった。

2日目は、開発区をバスで視察したが広い区域には、自動車部品工場や薬品工場などたくさんの企業が点在していた。太湖に沿って上海に向かったが、太湖の中に変った建物が建っていたが有名ホテルとのこと。また、湖岸や周辺には高級別荘地が作られ、太湖を望む一大リゾート地となっていた。

長興県は、面積が1430平方キロ、人口が62万、とのことであったが、太湖周辺・長江（揚子江）デルタ地帯には6000万人～1億人が生活し、富裕層、中流層が多く、不動産投機もあるかもしれないが、リゾート地の開発の時代となり、世界の工場、安価な労働者の国というイメージから、観光、レジャーの時代に大きく変わりつつある感じがした。

上海に向かう高速道路沿いで印象に残っているのは、太湖から幅の広い運河が海に向かっていくつもあり、船が行きかっていたこと。〇〇古鎮といった看板（たぶん中国の小京都？水郷のある観光地）がいくつもあったこと。エレベーターの看板や工場が目についた。

日本のごみ焼却場のような施設は目に入らなかった。（どうしているかは今後の課題）

上海市には、昼に到着、昼食後「日中ものづくり商談会」会場である「上海世貿商城」に向かった。

上海市街地の中にあり、ホテルからは歩いて向かった。会場は3階と4階となっていたが、1階では、精密機器、自動機器の商談会が開催されており、日本の企業がたくさん出店していた。京都のブースでは、グリーンティや玉露などのお茶類、写真油絵加工サービス、オリジナルグッズなど事業者の方ががんばっていた。グリーンティはもう少し甘いほうが、お茶は人気があるが、中国茶の本場だから、とかの話を伺いながら、会場全体を回ってみた。向かいには京都府のブースがあったが、京田辺市のような市・商工会のブースはあまり見かけなかった。京田辺市の参加企業の単独ブースもあったが、多くは、企業の単独、あるいは現地合弁企業が出展であった。印象に残ったのは、室内での野菜の栽培システムがいくつかあったことや、精密機器類、環境機器類の出店が多く、これからの需要の傾向が表れているのかなどの思いがした。また、1階の商談会場では、製造業での自動化機器や、精密機器の専門企業がたくさん出店しており、安価な労働力による製造から、より付加価値を付けた高品質の製品を自動化・省力化して製造する時代に中国は入っている。長興市でのリゾート地開発、工業の高品質・自動化の流れからみると、中国は確実に新しい時代に入っていると感じた。

翌日訪問した、領事館、ジェトロ、京都上海21（京都府上海ビジネスセンター）でのお話でも、日本のケーキ屋さんが上海近辺で出店し成功しているとの話も聞くと、私たちの子育て時代にケーキ屋さんが各地に出店していた様子とよく似ているようだ。

確かに、商慣習や、文化の違いから、安易な進出は難しい面があると思うが、中国経験者や、行政関係者が連携したサポートをすれば、これまでの日本での経験を生かした事業が展開できるチャンスであると思う。引き続き、府と連携した、市、商工会のこうした取り組みは事業者が新たなチャンスをつかむことができる機会として有効であると思う。

岡本茂樹 委員

「日中ものづくり商談会 I N 上海 2014」現地視察研修

◎訪中目的と実施内容

1. 日中ものづくり商談会 I N 上海 2014 の現地研修を実施して、京田辺市内の中小企業の販路開拓の効果や課題を整理して、今後の市政策に役立つ助言内容を見つける。
2. 発展著しい中国国内でも有数の発展を遂げている上海近隣都市長興県を訪れて、都市計画や企業誘致、また、進出している企業等を見学した。また、長興県行政関係者との懇談も実施。
3. 在上海日本国総領事館、J E T R O、京都府上海サポートセンターを訪問し、販路開拓として中国を選定する意義及び今後の対中戦略のあり方をそれぞれの担当者から聞き取りを行った。

◎9月3日長興県視察

上海到着後、直接、長興県に高速道路で2時間半かけて向かった。あまり質の良い舗装道路であったが、見渡す限りまっすぐの道路で、日本との景色の違いを楽しみながら、一路長興に向かった。長興の景色は、いかにも新興の団地で、都市計画がきちっとされて、後、住宅団地が立ち上がってきているのが、理解出来た。行政担当者との懇談で、長興県の都市計画事業には、北京の中央政府からの補助は受けずに、すべて長興県で財政の収支をまかなっており、事業実施のタイムスケジュールを出来る限り短縮してまちづくりが進められており、茶づくり等、古い歴史も生かしながらの様子は地域づくりの一つの模範自治体として評価されているようである。新幹線も整備されていた。今後の街づくりによって、どのようにまちの顔が変わっていくか楽しみである。

◎9月4日「日中ものづくり商談会」視察

京田辺市からは、各分野にわたり7企業が出展されており、市内企業の活力を感じる事が出来た。商工会からも数名参加されており、京田辺市、京都府、日本の域を超えて、ターゲットを世界に広げておられる意気込みを感じた。業界の新しい動きに商工会と市がサポート役にまわり、積極的に今後とも取り組んでいく必要性を感じた。今回の企業からの出展者が、若い人たちが多く、パソコン等も最大限に使用しながら、企業の大きな役割を担っている姿が垣間見え、頼もしく思えた。7店ともそれぞれに取引が進んだようであった。

◎ 9月5日関係機関訪問

①京都府上海サポートセンター

府職員から、上海、中国の物流や、商談の状況説明を受ける。日本からの積極的な、攻撃的な商談持ち込みを期待しておられた。サポートセンターをもっと利用して欲しい。京田辺はやはりお茶が有望ではないかとの事。

②ジェトロ上海事務所訪問

所長や職員と40分ほど懇談

③在上海日本国総領事館訪問

パスポートを携帯して入館。近年日本からの受け入れや、中国人の日本への渡航件数が飛躍的に増加し、忙しくなってきたとの事。外務省の職員も増やして欲しいとの事。上海の大きな活力をここでも感じる事が出来た。

◎上海市、長興県の研修視察を終えて

京田辺市としては、久しぶりに海外への視察研修であったが、①事前の打ち合わせも含め、②資料の読み取り、③現地でのまちづくりの状況把握、④当地での聞き取り、⑤京田辺市在の企業の皆さんとの懇談など、多くの当初期待していた目的を達成することが出来た。

これらの成果を、今後いかに商業政策に生かしていくことが出来るか、建設経済常任委員会で十分検討していくことが大切である。

岡本亮一 委員

建設経済常任委員会 日中ものづくり商談会 in 上海を視察

2014年9月3～5日、建設経済常任委員として中国上海と長興県へ視察に行きました。

今回の訪中の目的は、①発展著しい中国国内でも有数の発展を遂げている上海近隣都市長興県を訪れ、長興県行政関係者との懇談を実施すること。②日中ものづくり商談会 in 上海2014の現地研修を実施し、京田辺市内の販路開拓の効果や課題を整理し、今後の市政策に役立つ助言を見つけること。③京都府上海サポートセンター・ジェトロ・在上海日本国総領事館を訪問し、販路開拓として中国を選定する意義及び今後の対中戦略のあり方等を聞き取りに視察へ行きました。

▼長興県行政関係者と懇談

初日は、行政関係者の博（フウ）さんから説明を受けました。

長興県は、浙江省湖州市に属し人口64万人、面積1420km²で京田辺市と比べると、人口では約10倍、面積では約33倍にもなります。

交通網は、上海へは160km、他の主要都市（蘇州、杭州、常州など）にも100km以内にあります。県内は、鉄道（新幹線）や国道が発達している上、水路も整備されており、便利であるとのことでした。

主要産業は、紡織、アパレル、機械、電子、建材、食品、薬品などです。また、工業インフラが整っており、工業売り上げは1000億元（1兆7千億円）で、その上、労働力人口が多く、しかも近隣都市より人件費が安いとのことでした。自然資源も豊富で、太湖からはシラス、レンギョ、上海ガニがとれるとのことでした。

▼日中ものづくり商談会 in 上海2014を視察

2日目は、日中ものづくり商談会を視察しました。日中ものづくり商談会とは、日本の製造企業が材料や部品の現地調達や、自社製品の販路拡大のために、調達・販売品を展示し、ローカル企業や現地日系企業と商談する業界特化型の商談会です。圧倒的な集客力で近年継続的に約1万人近くの来場者を迎えており、部品・機械、電子部品、機械部品、加工などを中心に、全来場者の9割以上を製造業関係者が占めています。

京田辺市では、市内企業の海外販路開拓を支援するため、日中ものづくり商談会への出展を昨年から支援しています。新規顧客の獲得や実質的な販売だけではなく、お客様からの最新情報が収集でき、幅広い観点から見た各業者からのニーズに触れることができる等、さまざまなメリットが得られ、更に出展者同士や、来場者との商談の事前マッチングが特徴で、効率よく商談が行える内容となっています。

今回の商談会では、550社（うち京田辺市からは7社）が出展し、商談件数は延べ1万6千件、開催期間中（9月3・4日）の来場者数は、計8800名と、終始熱気に満ちたものとなっていました。

京田辺市ブースとしては、（有）岩本製作所・カメラのトモミ堂・（株）吉蔵XYZ・舞妓の茶本舗・（株）祥玉園製茶が出展、その他にコフロック（株）、（株）大京化学、が出展。

昨年につき2回目の参加になるカメラのトモミ堂は、お気に入りの一枚を、絵画調に加工する「油右衛門(あぶらえもん)」というサービスを用意されていました。写真を絵画調に仕上げ、表面に筆跡や手触り感の加工までしたもので、仕上がりはまさに油絵のような質感です。

昨年は初めての中国での出展ということもあり、アイデアだけを盗まれるのではないかと不安だったけど、今年はジェトロに協力してもらい、商品の説明が安心できたと話されていました。また、商談では代理店をだしたいという方もおり、販路拡大に期待されていました。

舞妓の茶本舗は、昨年に引き続き参加され、実演販売をされるなど20万～30万円売上があり、手ごたえを感じておられました。

今回、初参加の祥玉園製茶は、会社や商社関係から良い反応を頂いている。また、5つ星ホテルからの依頼もあり、今後は、中国も含めて他の国の反応も見てみたいと意欲をみせておられました。

▼京都府上海サポートセンター・ジェトロ・在上海日本国総領事館を訪問

3日目は、京都府上海サポートセンター・ジェトロ・在上海日本国総領事館を訪問しました。初めに訪れた京都府上海サポートセンターでは、日本公益財団法人京都産業21上海代表の藤原二郎さんより、お話を聞きました。

現在、中国の人口は約15億人、上海市の人口は約2400万人です。上海市内に入り出る人もあわせれば、約5000万人いるとのことでした。つまり、日本人口の約半分が上海にいることになります。

日本人に中国のイメージを聞くと、「中国は…」と、中国を主語で話される方が多いが、それはやめてほしいと話されていました。中国は広大な領域を22の省、5つの自治区、4つの直轄市に分割しており、一つの省でも人口は約7千万人から1億人いる。だから、一つひとつの省を国とみてほしいと、話されました。

これまで中国のセールスポイントといえば、安い労働力でした。上海などの沿岸部に人を集め製造し、輸出することで発展してきました。特に、上海は2000年代にはいつてからは、高層ビルが建ち始めるなど急発展をとげてきてきた。2005年では、日本の半分だったGDPが2010年では日本を追い抜き、米国について世界2位になった。その後も成長し続け、2013年名目GDPでは、日本の2

倍のGDPになるまでに成長した。現在も平均7・54%で伸びている（中国9兆2千億ドル・日本4兆9千億ドル）

一人当たりのGDP（5000ドルを超えると購買力がつき車など購入できる）は、米国5万3101ドル・日本3万8491ドル・中国6747ドルですが、2025年頃には米国を抜き、人民元切り上げを考慮すれば、世界1位の経済大国になるのは時間の問題だとも話されました。

しかし、2008年のリーマンショックで様変わりしたそうです。それまでは外需頼みだった中国经济も、これからは内需が大事だと判断するきっかけとなり、2009年からは方向転換したとのことでした。

日本企業が中国に販路拡大することについて、これまでの中国では「生活」することが中心だったが、これからは「質」を求めるようになる。日本には、高い技術があり経験者も多くいる。これからは、ノウハウ（技術・人）を売る時代になる。日本のダメな所は、製造から販売まで全て自社で行おうとすること。20年経てば、中国に日本の技術は追いつかれる。それまでに、日本の高い技術を売るべきだ。そのためには、製造業だけでなく、IT・ネット・サービス業など、中国にきて何が販路拡大できるのか、差があるところは商売になるのだから、そのことに気付けることが大切であると、力説されていました。

次に、ジェトロ・日本貿易振興機構を訪問し、蘆田副所長より、お話を聞きました。

いま、中国全土で富裕層（資産1億6千万円以上）が増加し、2012年末時点で105万人に達しており、上海は中国富裕層居住地トップ3位で14万7千人の富裕層が暮らしている。

自動車やスマートフォンは、市民の大半が所有しており、人件費もこの5年間で倍増しているとのことでした。また日本企業が、このような巨大な市場にどうやって食い込んでいくのかが、今後の課題だと話され、その上で、上海市民が生涯で、どこを重点にお金を使うのかを説明されました。①出産→高まる産後ケアに産婦と新生児の世話専門の家政婦は、高額でもニーズが高まっている。（出産費用約6万円）②就学→高校・大学への受験競争が厳しく、幼いうちから塾に通い始める子ども達が多い。③結婚→上海の結婚披露宴の平均総費用は108万円となっている。また、それに伴い日本企業の進出が増加しているとのことでした。

次に、在上海日本国総領事館を訪れ、石川勇領事（総務・経済・政治部長）より、お話を聞きました。

マーケティングにおいて、物を買う中国人はたくさんいるが、どう販売して行くのかが課題である。最近では、中国から日本へ飛来し、主に人の呼吸器系に沈着して健康に影響を及ぼす粒子状物質PM2・5の影響で、中国国内では空気清浄器が購入され、シャープ・ダイキンなど日本企業が、前年比2倍も売り上げを伸ばし

た。今後は、水・土壌など環境の分野にマーケティングが広がるのではと話されていました。

京田辺市の名産である「玉露」をどう中国で販路拡大していけばよいかとの質問に対して石川領事は、まずは「日本」→「京都」→「お茶」→「玉露」というように関連付けて覚えてもらえるようにすればよいのではと、アドバイスして頂きました。また、京都に行く中国人はたくさんいるのだから、いろんな種類のお茶を試飲できる場をつくり、玉露を贈答用にできたら、さらに良いとも話されていました。

日本でも様々なお茶の種類があるので、一自治体では発信力がない。例えば、北海道・九州食品フェアなどのように、点ではなく面でとらえて行うことで、観光の幅も広がる。また、九州全域の地図を電子化することにより情報をプラットフォーム化した事例を参考にすればよいのではとも話され、今後、販路拡大をすすめるうえで参考になりました。

今回の視察を通して感じたことは、中国は日本と違い人口増加と経済成長が続いており、市場規模も拡大しています。日本国内より、将来性に対する期待と展望があり販路を求める理由もわかりました。しかし、同時に単純に日本国内と同じやり方では通用しないとも感じました。

京田辺市からの出展者のお話をきくと、昨年と違う手ごたえを感じておられ、2年目となる今回は、独自の工夫がなされ、更なる販路拡大に意欲をみせておられたのが印象的でした。

京田辺市にとって、日中ものづくり商談会がすぐに経済効果にあらわれるとは思いませんが、日本国内には想像できない新たな発見や、多くの情報を得ることが、今後の販路拡大に生きてくるのだと感じた研修となりました。

喜多 進 委員

今回の中国研修の目的

① 日中ものづくり商談会@上海の現地研修を実施して、京田辺市内の中小企業の販路開拓や課題を整理して今後の市の政策に役立つ助言を見つける。

・今回の商談会では、550社（うち京田辺市からは7社）が出展し、商談件数は延べ1万6千件、開催期間中（9月3・4日）の来場者数は8800名と熱気に満ちたものでした。日本企業が中国に販売拡大することについては、これからは「質」を求められる。日本には高い技術があり、経験者も多くいる。中国市場は上海だけでも人口2400万人、上海に出入りする人を合わせれば、約5000万人いるとのことでした。こうした広大な中国市場に販売を拡大しようとされている企業に市は支援してあげればと考えます。今回はその支援を3年間とされているが、できれば延長してあげてほしいと考えます。

② 発展著しい中国国内でも有数の発展遂げている上海近郊都市長興県を訪れて、都市計画や企業誘致、また進出している企業等を見学する。また、長興県行政関係者との懇談を実施。

・長興県には、上海浦東空港からバスで3時間かけて長興県に向かいました。到着後、行政関係者から説明を受けた長興県は、浙江省湖州市に属し、人口64万人、面積1,420k㎡で、京田辺市と比べると人口では約10倍、面積では約33倍の都市です。交通網は新幹線や高速道路及び道路網が至る所に整備されていました。工業インフラが整っており、工業売り上げは、1,000億元（1兆7千億円）でそのうえ労働力人口が多く、人件費も安いとのことでした。都市部の郊外は農家が多く、自然豊かな町でした。交通網が発達していますので、これからまだまだ伸びて行く都市のように感じました。

③ 在上海日本国総領事館、JETRO、京都府上海サポートセンターを訪問し、販路開拓としての中国を選定する意義及び今後の対中戦略のあり方等について聞き取り。

・これまで中国セールスポイントと言えば、安い労働力でした。上海などの沿岸部に人を集め製造し輸出する事で発展してきました。日本企業が中国に販路拡大することについては、日本の高い技術を売るべきだ、そのためには製造業だけでなく、IT、ネット、サービス業など、中国に来て何が販路拡大できるのか、差のあるところ商売になるのだから、そのことに気付くことが大切であると話されていました。日本企業が中国に進出することについて注意点としては、日本企業が気軽に進出するのは危険であり、最低5年くらいは腰を据えてやらなくてはならない。日本のものをそのまま中国に持ってくるのではなく、中国向けに改良した方が良いとのことでした。又、中国は、日本と違い契約社会なので、支払いをするときは、専門家に相談し契約内容をしっかりと確認することが大切だと話されていました。

今回の研修で感じたことは、中国は日本と違い人口・経済成長が続いており、市場規模も拡大していることから、将来性に対する期待は大きいと考えます。京田辺市にとって日中ものづくり商談会がすぐに結果が出るとは思いませんが、日本国内にはない市場拡大が生きてくると感じました。

塩貝建夫 委員

「日中ものづくり商談会@上海 2014」に参加して

2014年9月 3～5日、京田辺市海外販路開拓支援事業の在り方や今後の市内中小企業支援施策等への市予算執行の実態を調査、研究するための視察研修であった。以下、参加しての評価と感想を記しておきたい。

1、中国長興県（人口64万人・面積1490km²・上海から車で2時間・太湖の西側）のまちづくりについて

- ・この地方の共産党の書記の歓迎を受け、市内の発展するまちづくりの状況を視察した。広い幹線道路、町の中心部に憩える広い池と散策路、10階～20階の高層ビルの建設、電柱の地中化等々、まちのメイン区画の整備が進んでいた。メインストリート沿いの立派なビルのところどころに、廃屋となったつぶれたビルが結構残されていた。
- ・市民の住む裏通りには露店の店屋が、リンゴ、栗、桃、すいか、ブドウなどの地元で採れる果物を売っていた。朝食用のごはん、ラーメン、揚げ物なども販売されており、朝食は外で食べるらしく、小学生や中～高校生も見受けられた。時折通るバイクは蓄電池式のため音がしないで通り過ぎ注意を要した。
- ・長興県は観光にも力を入れており、お茶の経典を記した「陸羽」を紹介する観光施設が建設され、中国でも高級といわれる「筍の茶」の生産、銀杏、太湖のシラスや上海カニなども特産物となっている。治安もよく、安定しており教育重視の取り組みに力を注いでいると紹介された。
- ・田園地帯の一角を面整備する上で道路、電気、公園、居住区、官庁街など計画的なまちづくりで今後の発展が期待できる。

2、「日中ものづくり商談会@上海 2014」に参加して

- ・モノづくり商談会のブースは、Aー加工、Bー原材料、Cー消耗品、Dー生産設備・電気、電子部品、Eー総合、Sーソリューション、Tーテーマエリア等7つのセクションが3～4階の二つのフロアスペースにぎっしりと出店され、中国市民も含め活発な売り込み、交流等エネルギッシュな商談会であった。

京田辺ブースで出店者とあいさつし、激励と意見交換、今回2回目参加した感想、今後の希望などを直接話し合うことができた。

- ① 2回目ですでに中国販路拡大に力を注いでいる舞妓の茶は、すでに中国上海事務所を設置して販路拡大に力を注いでおり、現地の社員からは中国に京田辺市も事務所を設置してはなど希望も語ってくれた。すでに営業活動が展開されていることはこの取り組みの成果であるといえる。

カメラのトモミ堂も2回目の参加となり、デジタル写真を絵画風にアレンジする「油右衛門」が商談につながってきたことに手応えを感じておられた。

- ② D-egg で起業した会社も参加され、販路拡大の新しい挑戦として参加されていた。
- ③防災用具や玩具など新素材を扱い多彩に商品化されている「岩本」さんは、多くの参加者から商品についての注目が寄せられていた。いくつかの商談もできており、今後も継続してこの事業を続けてほしいと言われていた。
- ③初参加の小林祥玉園は、玉露手もみ名人日本一の実績を下に、新商品の開発＝中国人に好まれるお茶の開発ができるようにと今回初参加されていた。
- ⑤コフロックさんは、「やっぱり中国市場のスケールは大きいし、会社として販路開拓のアクションを起こすきっかけになっている。このような出店ブースを市が支援してもらえると会社としても動きやすい。今後もぜひ継続して欲しい」「外国市場へ出ていくこと、販路拡大はこれからも追及していきたい」と37歳の営業職員が話してくれた。
- ⑥大京化学さんは、カーテン、作業服などの防燃布を加工販売している会社で、小さな会社だが販路開拓していきたいので、これからもこの企画は続けてほしいとおっしゃっていた。
- ⑦市から参加している職員、市商工会の職員なども生き生きと仕事をしている姿が印象に残った。商工会の職員は、「京田辺売り込み隊」のノボリ、ハッピーで売り込みのサポートをされ、どのブースよりも活発な、活気にあふれたブースとなっていた。

3、京都府上海ビジネスサポートセンター、ジェトロ、日本領事館を訪問して

- ①京都府上海ビジネスサポートセンターの所長藤原二郎さんから中国市場の状況についてお話を聞いた。一番印象に残った言葉は、『「中国」を一国とするいい方はやめて欲しい」「〇〇省は一国と見たほうが良い。上海だけでも2700万人の登録人口である』という点と、歴史的に見て現在の中国は、GDPで日本を追い越したこと。国民一人あたりのGDPが5000ドルを越えると中流と言われており、中国は6474ドル（世界84位）、日本は38491ドル（24位）となっており、これからモノの「質を求める」国民が増大していること。ノウハウを売る時代を迎えている」ということでした。その点でメイドインジャパンの安全、精巧、緻密なクオリティーは高い評価をうけている」という点でした。大いに将来性があることを熱っぽく語っておられた。
- ②ジェトロでは、副所長の蘆田さんから中国経済の現状と将来見通し、同じく斉藤さんからは、中国でのマーケティングについて、「チャイナリスクをどう受け止めるか、チャンスを逃さないことが大切。競争が激しいが、5年間は腰を据えてやる必要がある」「京田辺市の小売店でもビジネスチャンスはある」とマーケティングのポイントを紹介いただいた。

- ③ 日本領事館では、石川領事より上海の現状について、「治安よし」「金がジャブジャブ」「2～3千万円の車が走るし、金持ちはとんでもない金持ち」「海外旅行には2013年9800万人、今後5～7年で2億人が海外旅行に出かけるだろう」「今年査証の申請は1か月で11万7千件の発給、130万人が日本へ旅行している」という桁違いの話にびっくりした。

中国人はほうじ茶が好きで工夫すれば販路拡大可能であり、日本茶売込みは工夫次第で展望があることなどが印象に残った。

4、さいごに

今回の研修視察の感想について、①その場での取引、商談が進まないこともあるが、営業努力の真剣さ、エネルギーに大きな展望があることを実感できました。②また、1年ではなく最低3年は連続して参加することの意味も現地で体感し、理解できました。③経済活動は原材料～加工～製品化～販売…の一連の過程を通して好循環を生み出すことが欠かせないこと。そのためにも失敗を恐れず、前進、チャレンジしていく価値が中国、上海には存在することを現地にて実感いたしました。以上で研修報告の感想といたします。

松村博司 委員

中国上海および長興県へ視察研修

建設経済常任委員会では、経済環境部産業振興課が最低3ヶ年はということで中国上海で行われている「日中ものづくり商談会@上海」へ、出店されている事業に対し補助をしている関係で、常任委員会では是非、現地での取組み状況の確認と今後の対応も含めた産業振興について、視察研修することが全員一致により決定し、視察研修をしてまいりました。

9月3日（水）Am 6時30分

市役所を出発し関西国際空港へ、11時30分（中国時間）上海浦東空港着。到着後、現地通訳案内人とともにチャーターバスで、振興発展著しい長興県へ[昼食は車中]約3時間で到着。

長興県幹部の行政関係者と会談、視察に案内され浙江省湖州市長興県は、人口64万人、面積1420k㎡で上海から160kmにあり、新幹線や高速道路網が整備され便利などところと言うことでした。

主要産業は、電子、機械、建材、紡績、アパレルや薬品・食品であり、工業のインフラが整っており、工業系の総売り上げは日本円で1兆7千億円にもなるそうです。労働力人口が多く若者が多いということです。

産業振興（農業関係）環境への取組みについて、特区開発のハード・ソフト面を問うと、最古のお茶を紹介され昔は王様に献上された「紫笋茶」を頂戴し、茶の起源、製造法、飲用法や茶道具等のお茶に関する詳細を伝授されました。

9月4日（木）Am 7時50分 ホテル出発

長興県開発新区、大湖周辺開発状況視察、富裕層を対象に住宅やリゾート施設の開発が顕著に進められている。

上海世貿商城会場到着、11時30分 会場で昼食後、「日中ものづくり商談会」視察。

「日中ものづくり商談会@上海2014」本市では、市内企業の海外販路開拓を支援するため、日中ものづくり商談会への出展される企業、そしてその事業に対し支援しています。3年計画の今年で2年目となります。

海外での新規顧客の獲得と自社製品の販路拡大に、出展されている事業者はありとあらゆる手法を用い、富裕層やそれぞれのニーズに合ったマーケットを模索しながら、開催期間（9月3日～4日）の二日間に、約8800人もの来場者に熱心にサービスと実演販売をされ、実り多い事業展開である状況を視察することが出来ました。

今回の視察研修の目的は、新規の顧客に対する販路拡大される企業を支援することが最大の目的ではありますが、日本国内でも多くのものづくり商談会等は開催されている中で、海外に於いて、新たなマーケティングを新規開拓して、そして中国という巨大なマーケットに向け積極的に販売を繋げ、必死で販路拡大を目指し企業の活性化に努められている事業者を視察できたことは、日本国内では想像もつかない新たな発見等、多くの情報を得ることができ、建設経済常任委員会として素晴らしい視察研修となりました。

9月5日（金）Am 8時00分 ホテル出発

この日は、在上海日本国総領事館、京都府上海ビジネスサポートセンターおよびジェトロ上海事務所の3関係機関を訪問し、直接的に現地での取組み状況や支援体制、どのような形でのバックアップされているのか、また、研修を通じ我々の思いを質問させて戴くと同時に、今後の中国マーケットに向けた各企業の支援体制や自治体としての支援のあり方等を議論させていただきました。

在上海日本国総領事館 領事 石川 勇 副領事 里子 義範 懇談

中国でのマーケティングにおいて、物を買う中国人はたくさんいるが、その人達にどう販売して行くかが課題である。中国から飛来し人体に影響を及ぼす粒子状物質PM2.5の影響で、人の呼吸器系に沈着して健康に悪影響を与えることで、空気清浄器が購入され日本企業のシャープやダイキンなどが昨年比2倍もの売り上げを伸ばしている。

今後は、水や土壌などの環境分野がマーケットを広げるのは確実であると話されていました。

石川領事に質問させて戴きました。

京都府に於いても、宇治茶を世界遺産にしようと山田知事も力を入れておられ、お茶を通して本市の名産である「玉露」を中国や、また世界に向けて販路開拓しようと、京田辺市は自治体として支援しています。

例えば、一自治体としてこのような支援をされ、中国のマーケットに対し販路拡大の為に、支援されている自治体はありますか。

石川領事 中国のマーケティングに一自治体として支援をし、販路拡大をされる業者に対し、支援をされているところは少ない。しかし、日本そして京都、イコールお茶そして玉露と言うように関連付けて覚えてもらい、お茶を試飲できる場をつくり中国人に印象付けることが大切。日本には様々なお茶があるので「一自治体」では、発信力がない。

例えば、北海道フェアや九州食品フェアなどのように、点ではなく面としてとらえて行くことで観光の幅も広がり、京都府全域の地図を電子化することにより情報をプラットフォーム化すれば良いとも指導され、今後の販路拡大に参考になりました。

京都府上海ビジネスサポートセンター 主席代表 藤原 二郎 研修

広大な中国は、1つの省で人口は約7千万人から1億人が居住、1つの省を1つの国とみる方が正しい。上海の人口は2400万人上海市内に入出入りする流入を合わせると人口は5千万人と言われ、日本の総人口の約半分が上海に居ることになる。日本企業が中国に販路拡大するには、中国で生活することが中心であったが、これからは「質」を求めるようになる。日本は高い技術力があり経験者も多い。そのノウハウ（技術）を売る時代となる。

日本人は、製造から販売まで全て自社で行うこと、そこがダメなところである。

日本の高い技術を売る、ITやネット、サービス業など中国に来て何が販路拡大に結び付くか、そのことに気が付くことが大切であると、説明されました。

ジェトロ・日本貿易振興機構 副所長 蘆田 研修

上海市は、近代アジアの国際都市として発展してきた。その4割が外国からの流入で多様性のある大都市となって発展している。日本企業がこの巨大市場にどのように食い込んでいくのかが課題である。

上海市民が生涯、何にお金を注ぎ込むか。

- ① 産・産婦と新生児の世話、家政婦は高額でニーズが高い。
- ② 就学・高校大学への受験競争が厳しい。幼いうちから塾通いと学術に関心が高い
- ③ 結婚関係・披露宴は高額となっている。それに伴い日本企業の進出が増加している。

注意点として、日本企業が気軽に進出するには危険である。最低5年くらいは腰を据えてやらなければ、中国向けにカスタマイズしたものが良い。中国は日本と違い契約社会なので、専門家に契約内容を確認したうえで契約することが大切であるとされました。

関西国際空港への帰路

上海浦東空港 搭乗手続き Pm 4時00分

上海浦東空港において飛行機指令待機

関西国際空港着 (日本時間) 0時00分

京田辺市役所着 解散 Am 2時00分